

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

「国立公園と観光」
(2017年10月～12月)

環境省の「国立公園満喫プロジェクト」を例に、近年「国立公園」の魅力づくりや各種調査などが盛んにおこなわれ、注目を集めています。今回は、当財団が実施した国立公園に関する研究の一部を紹介しています。



古書ギャラリー 1F

今回は、エントランスギャラリーでの企画展示「国立公園と観光」に合わせ、当館が所蔵する国立公園に関する古書を展示しています。当時の雑誌や書籍からは、戦前の日本における国立公園の位置づけや選定の経緯など、興味深い歴史を知ることができます。



ガーデンラウンジ 1F

「一度は読みたい
観光研究書 & 実務書100冊」

旅の図書館リニューアルを記念して、当館所蔵図書から当財団が選んだ、観光の研究者や実務者にオススメの100冊（機関誌「観光文化」231号に掲載）を展示しています。（継続展示中）



「旅心を誘う、
旅の本のレジェンド30選」

旅行作家・荒木左地男氏の協力のもと選んだ、1950年代以降の日本人の海外旅行ブームを創り出し、旅行スタイルに大きな影響を与えた選りすぐりの30冊（機関誌「観光文化」231号掲載）を展示しています。（継続展示中）



展示ウォール B1F

「わたしの一冊」

当財団の機関誌「観光文化」では、当財団の専門委員にとって忘れられない本や思い入れのある1冊を、毎月お一人ずつご紹介いただいています。これまでご紹介いただいた「わたしの一冊」を連載記事とともに展示しています。（継続展示中）



「持続可能な観光」

機関誌「観光文化」235号の特集テーマ「持続可能な観光」に関連する所蔵図書の一部を展示しています。



旅の図書館リニューアルオープン1周年記念事業のご案内

当館では、リニューアルオープン1周年を記念して、以下のような記念事業を予定しています。この機会にぜひお立ち寄りください。

リニューアルオープン 1周年記念パネル展示

1Fエントランスエリアに、リニューアル開館後の取り組みや来館者の動向をご紹介するパネルを展示します。

「観光文化」235号に 記事を掲載

「観光文化」235号の「旅の図書館だよりー旅の図書館リニューアル開館一周年を記念してー」でリニューアル開館後の取り組みや来館者の動向などを詳しくご紹介しています。



第11回「たびとしょCafe」の開催

テーマ 「人と地域、情報をつなげる図書館
～観光と図書館の新たな連携スタイルを考える～」

ゲストスピーカー 猪谷千香氏（文筆家・ジャーナリスト）

今回のたびとしょCafeは、全国各地の図書館を独自の視点で取材されている猪谷千香氏をお招きします。観光と親和性の高い図書館の取り組み事例などをご紹介いただきながら、観光と図書館との新たな連携の可能性を考えます。

- 日時：2017年10月18日(水) 18:00～19:30
※17:30より「旅の図書館」をご案内いたします。ご希望の方は17:20までにお越しください。
- 場所：(公財)日本交通公社「旅の図書館」B1Fライブラリーホール
- 定員：60名(先着順) ●参加費：無料
- 申込方法：以下サイトの申し込みフォームからお申し込みください。
<https://www.jtb.or.jp/library/event>

たびとしょ

ー 旅の図書館 News Letter ー

Vol. 1

2017年10月号



旅の図書館 News Letter
「たびとしょ」発刊のご案内

昭和53(1978)年に開館した旅の図書館は、(公財)日本交通公社の本部とともに東京都港区南青山に移転し、2016(平成28)年10月、「観光の研究や実務に役立つ図書館」をコンセプトにリニューアルオープンしました。このたび、リニューアルオープン1周年を記念し、当館の近況ならびに注目の新刊図書などの情報をお伝えするニュースレター「たびとしょ」を発刊することにしました。本誌をご一読いただけますとともに、当館にもぜひ足をお運びいただけましたら幸いです。

「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

「ツーリズムEXPOジャパン2017」に参加しました

国内最大の旅の総合イベント「ツーリズムEXPOジャパン」が9/21(木)～24(日)の4日間、東京ビッグサイトで開催されました。今年のテーマは、“見つけよう。旅の「新しいカタチ」。創ろう。ツーリズムの「新しいカタチ」”。世界の国や地域が集まり、出展者や来館者が様々な交流する姿には、わが国の観光の“今”が凝縮され、あらためて国際理解・平和に貢献する観光の役割の重要性を実感しました。

当館スタッフも展示ブースをくまなく回り、普段なかなか手に入れることのできないパンフレットや地図などを収集してきました。これらの資料は、当館内に順次、配架して参りますので、ぜひご利用ください。



地域情報誌を充実しました

近年、地域ならではのディープな魅力を発信する地域情報誌が各地で生まれています。当館では、主要な都市や観光地で発行されている地域情報誌の中から、特色のあるものを選び60誌ほど収集しています。1F「旅の情報コーナー」でぜひご覧ください。



国連世界観光機関 (UNWTO) の寄託図書館になりました

2017年3月13日、国連世界観光機関 (UNWTO) の「寄託図書館」に認定されました。「寄託図書館」とは、高度な教育機関または科学の分野で認知された機関に属していること、UNWTOの刊行物を収集し、広く公開する図書館であることといった一定の基準のもとに認定されるものです。これにより当館では、「Yearbook of Tourism Statistics」などの主要統計の他、特定テーマに関するレポート類を充実させてまいります。

資料は館内B1Fの「UNWTOコーナー」にありますので、ぜひご利用ください。



check

第10回「たびとしょCafe」を開催しました (8/21)

テーマ 「観光資源評価」から考える日本の魅力の原点
～観光資源の見方、見せ方～
ゲストスピーカー 溝尾良隆氏 (立教大学名誉教授)

特別地域観光資源 (B級資源) を含む最新の「観光資源台帳」*の公開 (2017年7月) に際し、研究会のアドバイザーを務めていただいた溝尾良隆氏 (立教大学名誉教授) をお招きし、観光資源を客観的に評価することの意義や、観光資源評価のプロセス、観光資源の周辺整備事例などをお話いただきました。

*当財団では全国の観光資源の客観的・総合的評価の必要性を認識し、1968年に自主研究「観光資源調査の手法」を実施。その後、委託調査を契機に「全国観光資源台帳」を整理し、観光計画策定や観光レクリエーション適地選定など様々な場面で活用してきました。



旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します!



1 小林一三 都市型第三次産業の先駆的創造者

老川慶喜著 PHP研究所 2017年3月 A5判 333頁

阪急電鉄 (路面有馬電気軌道)、宝塚歌劇団、阪急百貨店、映画の東宝等の創業に関わり、日本の今日の都市型ライフスタイルの原型、私鉄経営のモデルを創り上げた小林一三。稀代の実業家を多面的に洞察した示唆に富む一冊。

2 文化遺産と生きる

飯田卓編 臨川書店 2017年5月 A5判408頁

国立民族学博物館の研究成果を書籍化。旧来の文化遺産にとどまらず、芸能、祭事、知識や慣習といった無形の遺産まで、文化遺産を抱えるコミュニティとその担い手たちの視点に立ち、世界各国で加熱する文化現象の実態を描き出す。

3 新・観光立国論【実践編】世界一訪れたい日本のつくりかた

デービッド・アトキンソン著 東洋経済新報社 2017年7月 四六判 321頁

『新・観光立国論』の続編。「大観光時代」を迎える世界で、渾身のデータ分析と現場での実践をもとに明らかにした「日本が進むべき道」とは、「6000万人」の外国人を呼び、「15兆円」を使ってもらう具体的な方法が、この一冊に。

4 「おもてなし」の日本文化誌 ホテル・旅館の歴史に学ぶ

富田昭次著 青弓社 2017年5月 四六判 288頁

ホテルや旅館に関する逸話や所蔵する図版を示して、「おもてなし」文化の成り立ちや幅広さを縦横に描く。ホテル業界の専門誌で健筆をふるった著者ならではの「日本のおもてなし論」は、一読の価値あり。

5 世界の地方創生 辺境のスタートアップたち

松永安光・徳田弘編著 学芸出版社 2017年6月 四六判 224頁

「スタートアップは辺境から生まれる」という視点から、小さいながらもしっかりと一歩を自らリスクを取って進めている事例を取り上げる。世界の先端事例を「地方創生」という切り口で集めた初めての本。

6 多文化時代の観光学 フィールドワークからのアプローチ

高山陽子編著 ミネルヴァ書房 2017年6月 A5判 252頁

本書は、地域の文化的文脈において歴史的建造物や風景、歌や音楽などを理解するための「観光リテラシー」を身につけるためのテキストであり、観光から多文化を理解するための一歩となる書。構成が工夫されており、学生にオススメ。

7 フンボルトの冒険 自然という(生命の網)の発明

アンドレア・ウルフ著 銀原多恵子訳 NHK出版 2017年1月 四六判 512頁

胸躍る冒険と緻密な観測から世界中を魅了した稀有な科学者フンボルトの伝記。王立協会科学図書賞受賞、NYタイムズベストブック選定。「地球はひとつの生命である」ことを、フンボルトと冒険の旅をともにしながらぜひ一緒に体感してほしい。

8 まちのゲストハウス考

真野洋介・片岡八重子編著 学芸出版社 2017年3月 四六判208頁

商店街の一角や山あいの村で丁寧に「場」をつくり続ける事例から、空き家活用や小さな経済圏・社会資本の創出拠点としての可能性を探る。地方におけるインバウンド受入れのあり方が問われる中、多くの示唆を与えてくれる。

9 表象の京都 日本映画史における観光都市のイメージ

須川まり著 春風社 2017年3月 A5判 408頁

映画の中に現れる「表象としての京都」は、戦後どのような変化を遂げてきたのか。小津安二郎監督「晩春」など、多くの作品を通して、細部に宿る京都を凝視する。映画と観光の相関史であり、映画を通した観光都市京都へのまなざしが興味深い。

10 東アジア観光学 まなざし・場所・集団

金成政・岡本亮輔・周倩編 亜紀書房 2017年3月 四六判 320頁

「沖繩の聖地・斎場御嶽における地元民と観光客のすれ違い」「セブタウン江南の誕生で刷新されたソウルの日本人観光」など、日本・中国・韓国で起きている観光現象を日中韓鋭い研究者が掘り下げた研究レポート。